

平成25年度 デイサービス部門 事業報告

重点目標

- ①ご利用者のニーズへの迅速で真摯な対応と関係機関との連携の強化
- ②組織内の連携の強化及びサービス内容の充実
- ③職員の資質向上
- ④地域社会へのアプローチの強化
- ⑤環境整備
- ⑥その他

総括

平成25年度は平成22年度後半から続くご利用者減に歯止めをかけるべく利用者確保対策を最重要課題として取り組んできたが、依然厳しい状況ではあるものの明るい兆しが見えてきた年だったと言える。25年度も年間を通じ、29名(利用再開者2名を含む)の新規のご利用があり、また一方20名弱の利用中止者が出たが、国が推進しているサービス付き高齢者住宅や平成24年の介護報酬改定を受けてリハビリに特化したデイサービスがさらに増加するなど厳しい状況の中において、平成21年度以来の年間7000人台を回復したことは、ふじの郷のデイサービスとしての方向性が地域及び在宅介護サービスに係る方々に支持されたと言えるのではないかと考える。特定日(水・木が利用者数低調)を除く曜日においては定数である30名に近いご利用者が来所される日も多く、全体として活気を感じた一年であった。今後も安定した利用者確保対策を最重要課題として取り組んでいく所存であるが、25年度において特徴的だったのは居宅介護支援事業所を通さず、直接ふじの郷へデイサービス見学・体験の打診が増えて来たことである。デイサービス利用に関することばかりでなく、一般的な福祉の相談などもあり、従来より行って来た出張体操や地域での各種イベントへの参加が10年目にしようやく実を結び始め、福祉拠点としてふじの郷が地域社会に認識されてきたのではないかとと思われる。このような状況は今後も続いていくと思われ、過半数強のデイサービスが居宅介護支援事業所を併設し、プラスの事業収支を出す事業所の傾向として居宅介護支援事業所を併設していることが報告されている一方で、当施設のようにご利用者の状態やニーズに即した迅速できめ細かいサービスを行うとともに、外へ出ていき、地域の方と積極的に交わり、地域の一員としてあることが、単独の事業所として存在し続けるひとつの重要な取り組みであることが実証されたと言える。26年度にはふじの郷も開設して10周年を迎える。それに伴い記念行事等を行う予定があるので、この機会にさらに施設を知って頂くような企画を考え、実践していきたい。

事業計画の重点施策で掲げた内容を踏まえ、組織内の体制強化については、今年度も引き続き主役はご利用者であるという基本姿勢を柱とするミーティングや研修等を行い、強力に推し進めた結果、組織内の連携もスムーズにいき、ご利用者の状態やニーズに合わせ

た柔軟なサービスを行うことができた。施設全体として利用者主体の現場実践は深まってきたが、各職員がご利用者の ADL やその他の情報から、その方の「できること(残存能力)」や「できないこと(課題・問題点)」を評価し、「なにができたらいいか・したいか(ニーズ)」を抽出して具体的な目標を立案する力が次の段階として必要になってくると思われ、引き続き今後も研修等で適切な教育・指導を行っていききたい。

最後に、平成 26 年度初頭に行われた今回の改正は消費税の増税に合わせて介護報酬を調整するだけのものだったが、平成 27 年度には 3 年毎の定期改正が控えており、この改正は、2000 年に介護保険法が施行されて以来の最大規模の大改正となるといわれている。殊にこの改正では要支援者に向けてのサービスに焦点が当てられており、要支援の方に向けた柔軟な対応でご利用者の方や各居宅介護支援事業所からも評価を頂いている当施設にとって改正の内容如何によっては良くも悪くもある程度の影響があることは否めない。また、数年後には団塊の世代といわれる方々が高齢者の中核になってくる。今後の見通しにおいて短期的にも長期的にもこの二つの要件は重大であり、早くからそれに向けての情報収集を行うとともに、新サービスに向けてのシミュレートを行っていくことが鍵となってくると思われる。いずれにしても在宅生活において、ご利用者の方が最後まで自分の意思で自己選択自己決定していけるようデイサービスでは、機能の回復に留まらず「生活の回復」、さらには生きがいを持つ「人生の回復」に向けて支援していくことが重要であろう。そのためにも、一日の中でひとときでもそのご利用者が輝ける瞬間を作っていくことを大事にしたい。

重点目標別報告

①ご利用者のニーズへの迅速で真摯な対応と関係機関との連携の強化

朝礼や終礼、スタッフミーティング等を通じて情報の共有化に努め、個々の利用者様のニーズに関係機関との連絡を密に取りながら迅速に対応した。

②組織内の連携の強化及びサービス内容の充実

- ・組織内の連携の強化については総括にも述べたが、主役はご利用者であるという基本姿勢を柱とするミーティングや研修等を行い、スタッフ間のコミュニケーション・連携の強化をはかった。
- ・機能訓練においては、平成 24 年度より看護師を加えミーティング体制を強化してきたが、更に生活相談員も加えたことにより、多角的なアプローチを行うことができ、より利用者様一人一人の機能に合わせた機能訓練を計画実践、また評価することが出来た。
- ・レクリエーションに関しては、デイを利用される方全体のかかわりと達成感を感じられるものとして、今期も引き続きタペストリーの製作を行った。利用者の方が「家でも出来る」と自信を持って帰宅できるような作品作りを行い、センターでの成功体験

を自宅でも追体験できるようにした。利用者様からの要望を反映したレクリエーションや行事も随時企画し行い、外出については今年も時期に合わせ、少人数でのタイムリーな外出を実行した。(8月蓮の花見学など)また施設外への外出だけではなく、ふじの郷にある資源(藤棚見物・お雛様飾り等)も活用し喜んで頂けた。今回はじめて、ご利用者宅での野点にお招き頂き、お茶を楽しんで頂くことも出来た。

(※資料)

③職員の資質向上

送迎時における挨拶を、利用者様、ご家族様のみならず近隣の方へも行うことを引き続き、指示し徹底させた。ミーティングや職員研修において対人援助業務に関する内部研修を行う一方、随時、ヒヤリハットや事故報告を基にした介護技術の見直しと検討を行い、再発防止に努めた。職員が個人的に外部研修に参加することを奨励し、デイサービス職員として持つべき知識を習得し資質の向上に努めるようにした。

利用者様に関する細かな気付きを朝礼、終礼で報告することを奨励し、それに対する検討を随時スタッフ間で行いサービスに生かした。

④地域社会へのアプローチの強化

各種地元のイベント(満月会・そろばん踊りなど)に参加し、地域の方との交流を積極的に行った。また、出張体操においては7件依頼があり、先方に出かけて行って体操を行った。内4件は新規に依頼されたところであり、地元を離れ、小森野や合川など今までになく広域に亘っての出張体操であった。

⑤環境整備

昨年度、利用者様のご要望で購入した低周波治療器(ホットパック付)が大変好評であり(毎日10名弱の方が使用するほどの稼働状況である)新たに2台購入した。また、職員からエアーマッサージ器(脚)の寄付があり、これも毎日5名ほどが使用している。

⑥その他

* 実習生の受け入れ

久留米大学(社会福祉士) 1名 (9月3日～10月9日)

デイサービス部門主任 : 濱田美穂子